

文藝春秋

鄧小平の「魔女狩り」 七月号

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
昭和五十七年七月一日発行毎月一回一日発行
昭和四十一年二月二十五日国鉄東局特別運送承認第三九七号
第六十卷第八号



1982

ロッキード・エアクラフト・コーポレーション

社長 A・カール・コーチヤン

米國 カリフォルニア州バークレー
電話(二二三)八四七一六五九一

A. CARL KOTCHIAN

PRESIDENT
LOCKHEED AIRCRAFT CORPORATION

(213) 847-6591
BURBANK, CALIFORNIA 91503

携手同吟盛世歌

李金泉

貴著を拝読し感慨無量なり。

今更唐殺(血債)などどうしようもない。これからは誠実懇切を

基に友誼を打ち建て共に手を携

えて平和な盛世を謳歌しよう。

七十歳に垂んとする、この高名

な反日家の心を突然衝き動かした

ものが何であったか、無論その真

意は知る由もない。だが、その理由

はなんであれ、両民族の間に横た

わる歴史の長く重い流れの中で、

この二つの詩が行き交うた一瞬を

垣間見た一人の人間として、私は

言葉では言い現わせない深い感動

を覚えずにはいられなかった。

コーチヤンと私の

ピーナッツ物語

はせがたお
長谷川龍雄

(トヨタ自動車工業専務)

話はいささか旧聞にぞくするが、今から丁度十年前の一九七二年の事である。アメリカのワシ

トンドンCにおいて五月末「トランスポセ七二」という航空機、自動車を主体とした交通機関のワールド・フェアが催された。その行事の一環として「第三回自動車安全性に関する国際技術会議」が開催され、私もトヨタが開発した安全自動車の研究発表を公表するために出席する事となった。自動車業界もまだ排気対策の実施は本格的段階にはいたっておらず、また第一次オイルショック以前の事なので比較的無難な時期であった。

第三日目の夕方、世界各国より集まった人達を含めて約三千人が一堂に会した大バンケットがあり、私も一夜を楽しむ事が出来た。その際ひな壇にはアメリカ政府の高官を始めとしてアメリカその他の主要な航空機会社、自動車会社等の最高幹部約四十名がずらりと着席し、一人一人が参会者に対して紹介された。その中にはロッキード、コーチャン副会長も含まれていた。これが私が彼を知った最初のめぐり合せである。私は奇妙

な名前だなあと思いつながら遠くよりながめているだけだった。このバンケットにより私は当時のアメリカの工業の活力と自信の縮図を見る思いをした次第である。

数日後帰途につく事になり、飛行機は途中給油のためホノルル空港に着陸し、私は待合室で一服していた。その時偶然にも予てより仕事の上で懇意になっていたハワイでも著名な実業家F氏に出くわした。しばらく雑談をした末「よい人がいます。紹介してあげます。いらっしゃい」といって彼は私をVIP待合室に導き紹介してくれたのがコーチャン氏であった。私はおやつと思いつながら、実は私は先般の「トランスポセ七二」のバンケットに参加し、あなたを見かけましたよ程度のもやま話をした後、まだ時間が余っていたので「これで失礼いたします。売店でも散歩してきます」と言ってコーチャン氏とF氏に別れを告げた。

私は元来アメリカの豆、特にカ

シューナッツとビーナッツが好物なので売店をうろついた末ビーナッツの缶を買うこととし、代金を支払おうとしたその時アメリカ人がそばに寄ってきた。よく見るとコーチャン氏である。彼「あなたは何をしようとしているのですか」。

私「ビーナッツを買おうとしているのです」。彼「ちょっと待ちなさい。私が買って、あなたにプレゼントします」という次第であれよあれよと見ている間に彼がさつと代金を払いビーナッツの缶を私に手渡した。つい先程初対面したばかりの私に対して、彼がどうしてこんな親切的な行爲をするのかなあと不思議に思いつながらも深く謝意を表わしてその場は別れた。

さて休憩時間もすぎ再び機内に入るとコーチャン夫妻がいるではないか。私はまたまたびっくりして「先程は誠に有難うございました。私には借りが出来ましたね。だけど都合によってレシートを差上げる訳にはいきませんのであしからず」と言い、笑い話で一時を

すごし羽田空港で別れた。

話はこれだけである。所が大分後になってロッキード事件が明るみに出るにおよんで、いささかオーバーな表現をすれば私は戦慄をおぼえた。

理由の第一は一九七二年六月ハワイといえは事件の真只中だったのではあるまいかという事。理由の第二は私が軽々しくいった「ビーナッツ」「借り」「レシート」等の言葉が面白おかしくいえば彼の頭の中に潜在意識として残り、事件と関わりを持つことになったのではないかという事である。

何れにしてもその直前までは何の関係もなかったコーチャン氏と私との間に起こりうべからざる様な事が連続して起きたという事は、ロッキード事件の中で神様が一寸いたずらをしてわき道にそれ、落ちこぼれ話を作り、にこっとしているとしたか私には思えない。ロッキード事件の結着もいよいよ大詰めに近い昨今、丁度十年前の出来事が昨日の事の様に

思い出される次第である。

最後に一言。コーチャン氏に対する私の印象は極めて温和な気取らない心やさしい好人物という感じで、腹黒いといった感じは全く見受けられなかった。

「アマデウス」

を読む

大岡昇平

(作家)

数年来、病弱になり、遠くなりかけていた耳が、薬のために一層遠くなってしまった。コンサートへ行っても、ピアノリッシモが、聞こえない。うちでレコードのヴォリウムを上げて聞くほかはない。従っていま評判のモーツァルト劇「アマデウス」を見に行けない。

本稿が人の眼にとまる頃は、池袋サンシャイン劇場で、興行がはじまっているはずだが、いま机の上に江守徹訳の脚本（構想社刊）がある。劇場へは行けないのだから、読んで、想像をたくましくす